

第 82 回「山形県内企業の景気動向調査」速報

(令和 7 年 2 月調査)

～景況感は 2 期連続の改善。先行きは慎重姿勢～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲7.3（前回調査比 5.6 ポイント上昇）と 2 期連続の改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の 3 項目で改善となった。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が縮小した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲16.7（前回調査比 4.6 ポイント下落）、製造業が▲13.4（前回調査比 0.4 ポイント下落）、卸・小売業が▲16.7（前回調査比 8.5 ポイント上昇）、サービス業が 21.2（前回調査比 19.9 ポイント上昇）と、製造業はほぼ横ばい、建設業は悪化、卸・小売業とサービス業は改善となった。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲7.7（前回調査比 3.3 ポイント上昇）、村山北部が 2.0（前回調査比 12.0 ポイント上昇）、最上が▲14.7（前回調査比 3.9 ポイント下落）、置賜が▲17.8（前回調査比 2.6 ポイント上昇）、庄内田川が▲12.9（前回調査比 4.5 ポイント上昇）、庄内飽海が 2.9（前回調査比 12.4 ポイント上昇）と、最上で悪化、その他の 5 地域で改善となった。村山北部、庄内飽海の 2 地域で D I 値がプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲11.4（今回調査比 4.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

【特別調査】

- **雇用調整**について尋ねたところ、全業種でみると「実施している（した）」と回答した企業の割合は「残業規制」が 34.4%（昨年比 0.4 ポイント上昇）、「ワークシェアリング」が 15.0%（昨年比 1.8 ポイント上昇）、「従業員の削減」が 3.9%（昨年比 1.4 ポイント上昇）、「従業員の中途採用」が 53.3%（昨年比 1.5 ポイント上昇）と、昨年に比べ、すべての項目の割合が上昇した。
- **新卒者の採用状況**について尋ねたところ、採用予定があると答えた企業の割合は、全業種でみると 40.0%（昨年調査比 0.3 ポイント上昇）と 2 年ぶりに上昇となった。

令和 7 年 3 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	4
③	卸・小売業	5
④	サービス業	6
3.	地域別の動向	7
(1)	地域別の概況	7
(2)	地域別 D I 値の動向	8
①	村山南部	8
②	村山北部	9
③	最 上	10
④	置 賜	11
⑤	庄内田川	12
⑥	庄内飽海	13
II.	景気の天気予報図	14
III.	特別調査	15
1.	雇用調整について	15
2.	新卒者の採用状況について	17
	<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>	18
	<参考資料Ⅱ：調査の概要>	18

I. 県内企業の業況

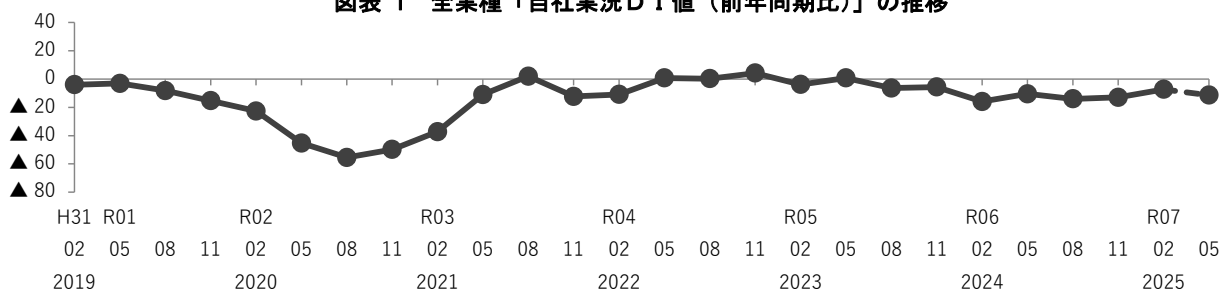
1. 概況

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲7.3（前回調査比 5.6 ポイント上昇）と 2 期連続の改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の 3 項目で改善となった。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が縮小した。

先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲11.4（今回調査比 4.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

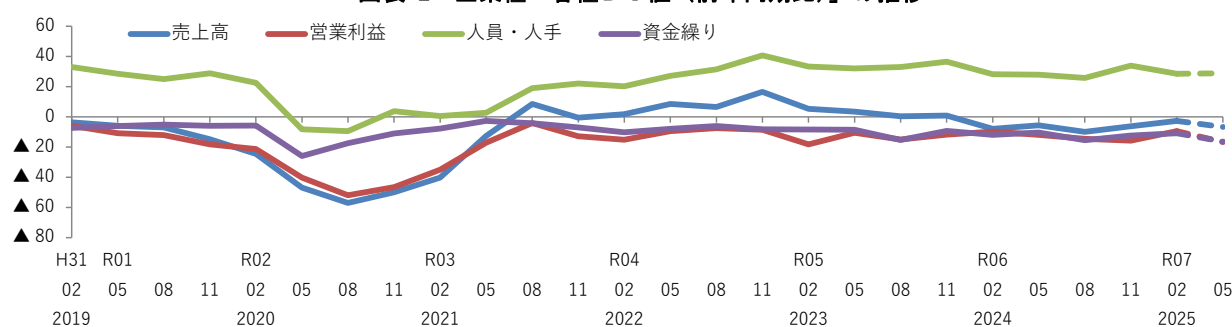
サービス業で堅調な動きがみられるものの、原材料、人件費、光熱費などのコスト高による企業の負担増加は続いており、総じてみれば景況マインドの持ち直しは緩やかなものとなっている。先行きに関しては、特にアメリカの経済政策への警戒感が強く、今後も消費動向、雇用・所得環境等と併せて海外情勢への注視が必要である。

図表 1 全業種「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 2 全業種「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 06. 02 (n=365)	▲ 15.9	(▲ 10.3)	▲ 13.2	▲ 8.0	▲ 9.8	28.3	▲ 12.0
R 06. 05 (n=374)	▲ 10.5	(5.4)	▲ 15.4	▲ 5.6	▲ 12.0	28.0	▲ 10.4
R 06. 08 (n=364)	▲ 14.0	(▲ 3.5)	▲ 10.2	▲ 9.9	▲ 14.6	25.8	▲ 15.4
R 06. 11 (n=385)	▲ 12.9	(1.1)	▲ 11.5	▲ 6.2	▲ 15.8	34.0	▲ 12.4
R 07. 02 (n=360)	▲ 7.3	(5.6)	▲ 9.6	▲ 2.7	▲ 9.4	28.6	▲ 10.8
前回調査比	-	-	-	(3.5)	(6.4)	(▲ 5.4)	(1.6)
先行き見通し	▲ 11.4	-	-	▲ 6.7	▲ 16.7	28.9	▲ 16.4
今回調査比	(▲ 4.1)	-	-	(▲ 4.0)	(▲ 7.3)	(0.3)	(▲ 5.6)

※「売上高」D I 値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

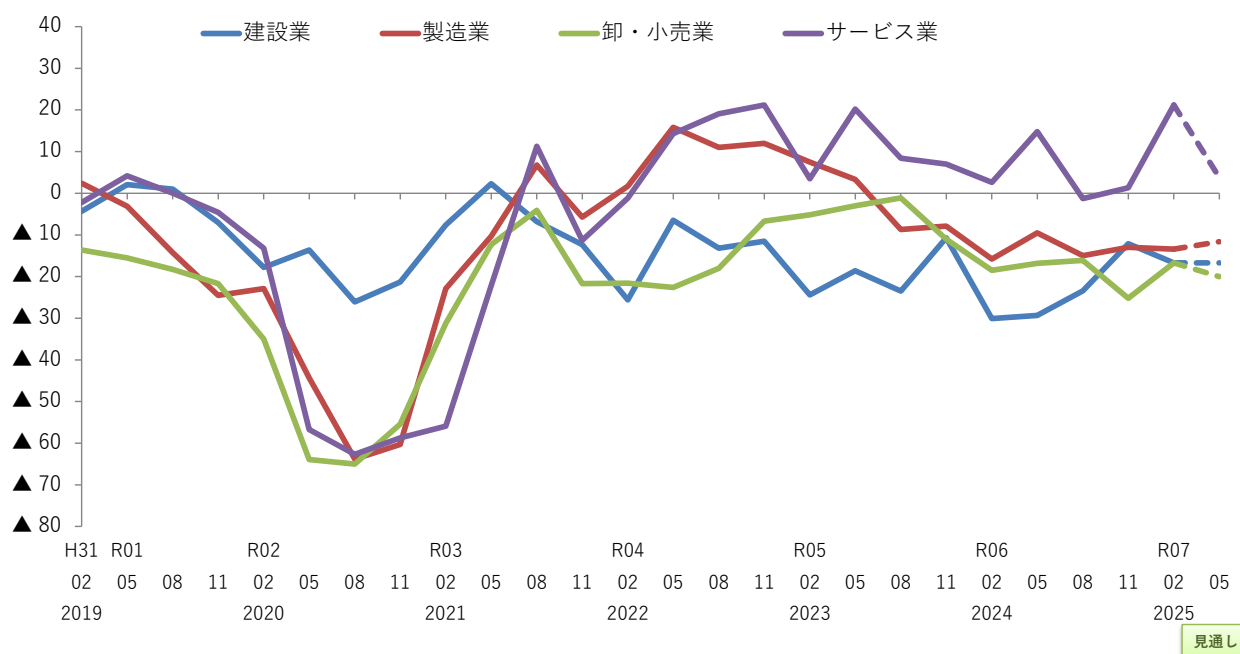
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、建設業が▲16.7（前回調査比 4.6 ポイント下落）、製造業が▲13.4（前回調査比 0.4 ポイント下落）、卸・小売業が▲16.7（前回調査比 8.5 ポイント上昇）、サービス業が 21.2（前回調査比 19.9 ポイント上昇）と、製造業はほぼ横ばい、建設業は悪化、卸・小売業とサービス業は改善となった。

業況の先行き見通しは、製造業で改善、卸・小売業とサービス業で悪化、建設業は横ばいで推移する見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

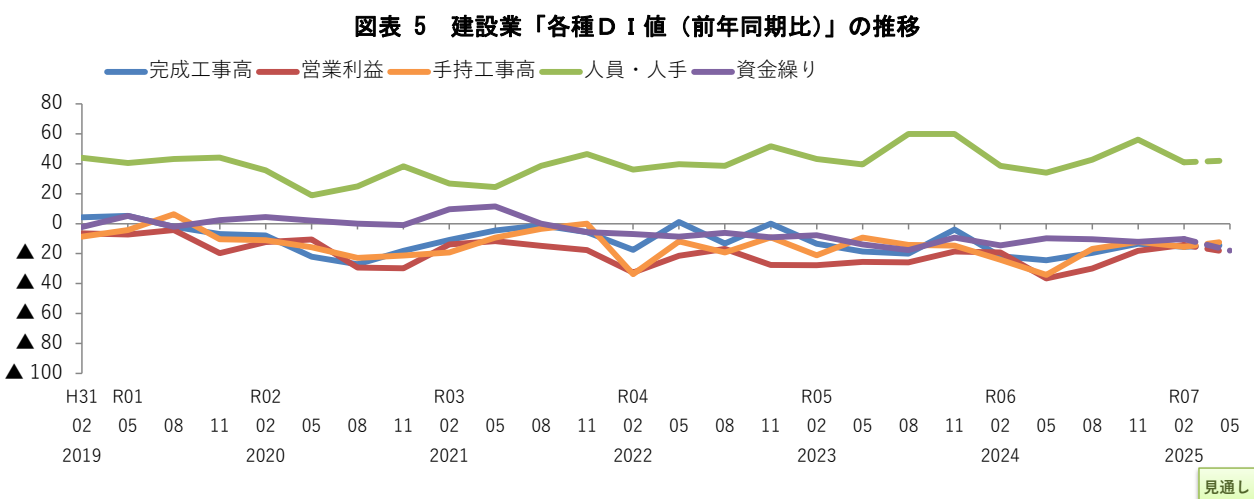
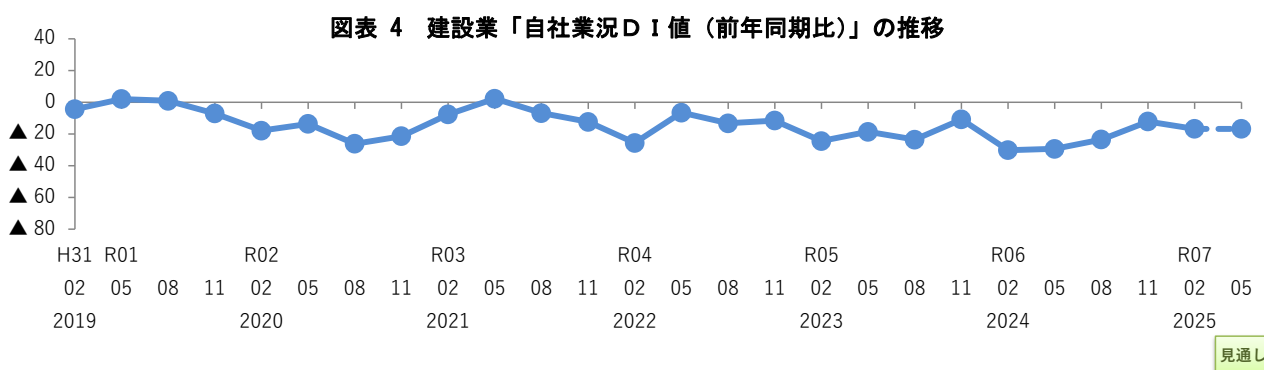
業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 06. 02 (n=365)	▲ 15. 9	▲ 30. 1	▲ 15. 8	▲ 18. 5	2. 6
R 06. 05 (n=374)	▲ 10. 5	▲ 29. 3	▲ 9. 5	▲ 16. 8	14. 8
R 06. 08 (n=364)	▲ 14. 0	▲ 23. 4	▲ 15. 0	▲ 16. 1	▲ 1. 3
R 06. 11 (n=385)	▲ 12. 9	▲ 12. 1	▲ 13. 0	▲ 25. 2	1. 3
R 07. 02 (n=360)	▲ 7. 3	▲ 16. 7	▲ 13. 4	▲ 16. 7	21. 2
前回調査比	(5. 6)	(▲ 4. 6)	(▲ 0. 4)	(8. 5)	(19. 9)
先行き見通し	▲ 11. 4	▲ 16. 7	▲ 11. 6	▲ 20. 0	3. 8
今回調査比	(▲ 4. 1)	(0. 0)	(1. 8)	(▲ 3. 3)	(▲ 17. 4)

(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲16.7（前回調査比 4.6 ポイント下落）と、4 期ぶりの悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」と「手持工事高」は悪化、「営業利益」と「資金繰り」は改善となり、「人員・人手」は 3 期ぶりにプラス幅が縮小した。各社のコメントから、建設コストの上昇に伴う住宅価格の高騰や住宅金利ローンの先高感などから新設住宅着工が低迷している状況がうかがえる。また、今後も豪雨災害の復旧工事による案件の増加が見込まれるものの、人員不足によって受注が難しくなることへの懸念もみられ、人手の確保が引き続き喫緊の課題として挙げられている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.7（今回調査比±0.0 ポイント）と横ばいで推移する見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

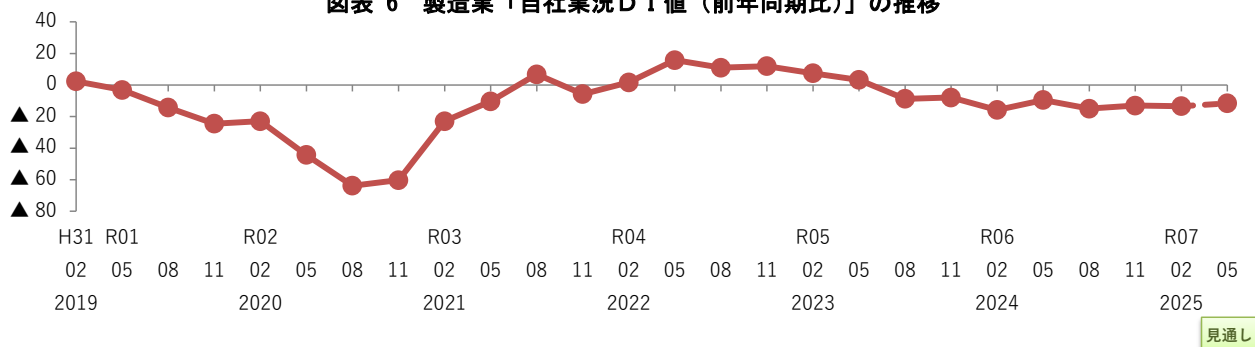
建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 06. 02 (n=83)	▲ 30.1	(▲ 19.4)	▲ 40.0	▲ 21.7	▲ 19.2	▲ 24.1	38.6	▲ 14.5
R 06. 05 (n=82)	▲ 29.3	(0.8)	▲ 39.8	▲ 24.4	▲ 36.6	▲ 34.2	34.1	▲ 9.7
R 06. 08 (n=77)	▲ 23.4	(5.9)	▲ 22.0	▲ 19.5	▲ 29.9	▲ 16.9	42.8	▲ 10.4
R 06. 11 (n=82)	▲ 12.1	(11.3)	▲ 6.5	▲ 13.4	▲ 18.2	▲ 12.2	56.1	▲ 12.2
R 07. 02 (n=78)	▲ 16.7	(▲ 4.6)	▲ 14.6	▲ 15.4	▲ 14.1	▲ 15.4	41.0	▲ 10.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 2.0)	(4.1)	(▲ 3.2)	(▲ 15.1)	(2.0)
先行き見通し	▲ 16.7	-	-	▲ 14.1	▲ 19.2	▲ 11.5	42.3	▲ 18.0
今回調査比	(0.0)	-	-	(1.3)	(▲ 5.1)	(3.9)	(1.3)	(▲ 7.8)

② 製造業

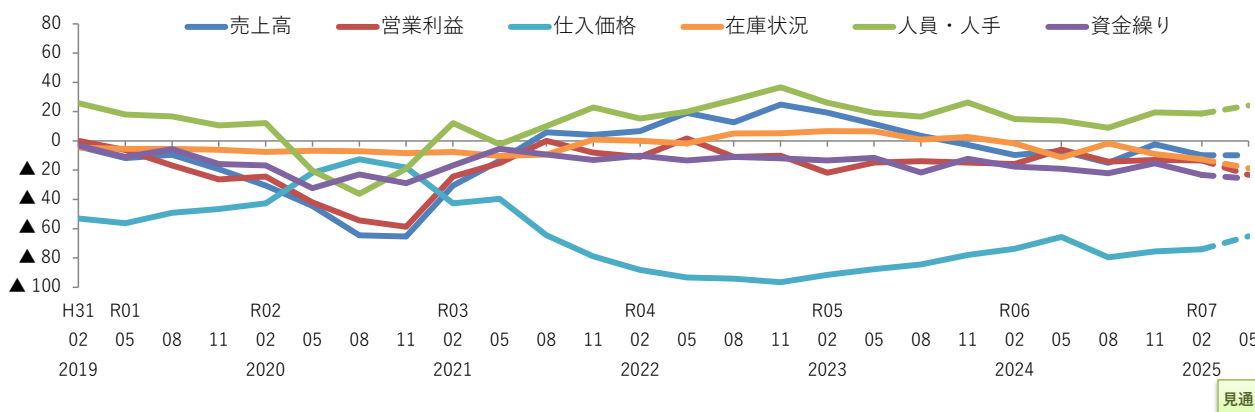
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲13.4（前回調査比 0.4 ポイント下落）と、ほぼ横ばいの推移となっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「営業利益」はほぼ横ばい、「仕入価格」は改善、「売上高」「在庫状況」「資金繰り」の 3 項目は悪化となった。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が縮小した。各社のコメントから、物流コストや仕入価格の上昇が利益を圧迫しており、経営環境は依然として厳しいことがうかがえる。特に、円安による輸入原料の高止まりが大きな負担となっている旨の内容が目立った。また、価格転嫁の実施状況にはばらつきがみられ、為替の変動などによってコストの見通しが立てづらくなっており、価格交渉時に苦慮しているケースも見受けられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲11.6（今回調査比 1.8 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

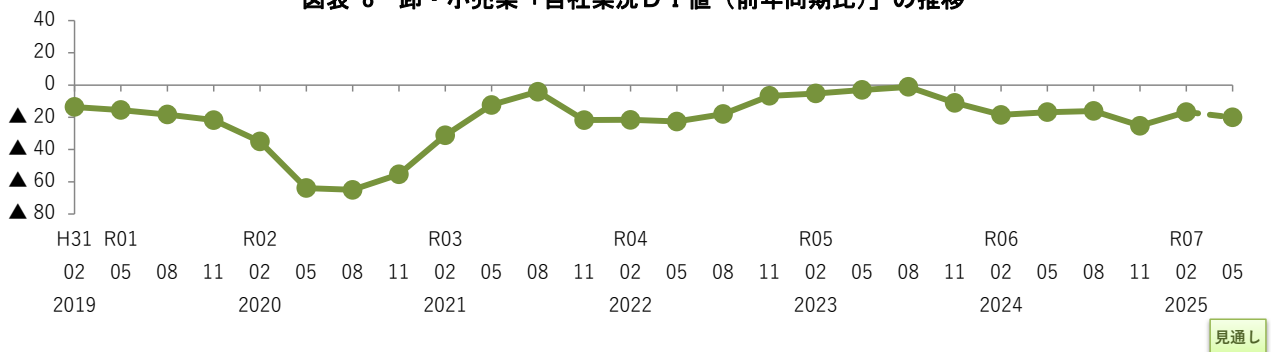
製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 06. 02 (n=114)	▲ 15. 8	(▲ 7. 9)	▲ 7. 9	▲ 9. 7	▲ 15. 8	▲ 73. 7	▲ 1. 8	14. 9	▲ 17. 6
R 06. 05 (n=116)	▲ 9. 5	(6. 3)	▲ 7. 1	▲ 6. 9	▲ 6. 0	▲ 65. 6	▲ 11. 2	13. 8	▲ 19. 0
R 06. 08 (n=113)	▲ 15. 0	(▲ 5. 5)	▲ 7. 8	▲ 15. 0	▲ 14. 2	▲ 79. 6	▲ 1. 7	8. 9	▲ 22. 1
R 06. 11 (n=123)	▲ 13. 0	(2. 0)	▲ 10. 6	▲ 2. 4	▲ 13. 0	▲ 75. 6	▲ 9. 0	19. 5	▲ 15. 4
R 07. 02 (n=112)	▲ 13. 4	(▲ 0. 4)	▲ 6. 5	▲ 9. 8	▲ 13. 4	▲ 74. 1	▲ 12. 5	18. 7	▲ 23. 2
前回調査比	-	-	-	(▲ 7. 4)	(▲ 0. 4)	(1. 5)	(▲ 3. 5)	(▲ 0. 8)	(▲ 7. 8)
先行き見通し	▲ 11. 6	-	-	▲ 9. 8	▲ 23. 2	▲ 65. 2	▲ 18. 8	24. 1	▲ 25. 9
今回調査比	(1. 8)	-	-	(0. 0)	(▲ 9. 8)	(8. 9)	(▲ 6. 3)	(5. 4)	(▲ 2. 7)

③ 卸・小売業

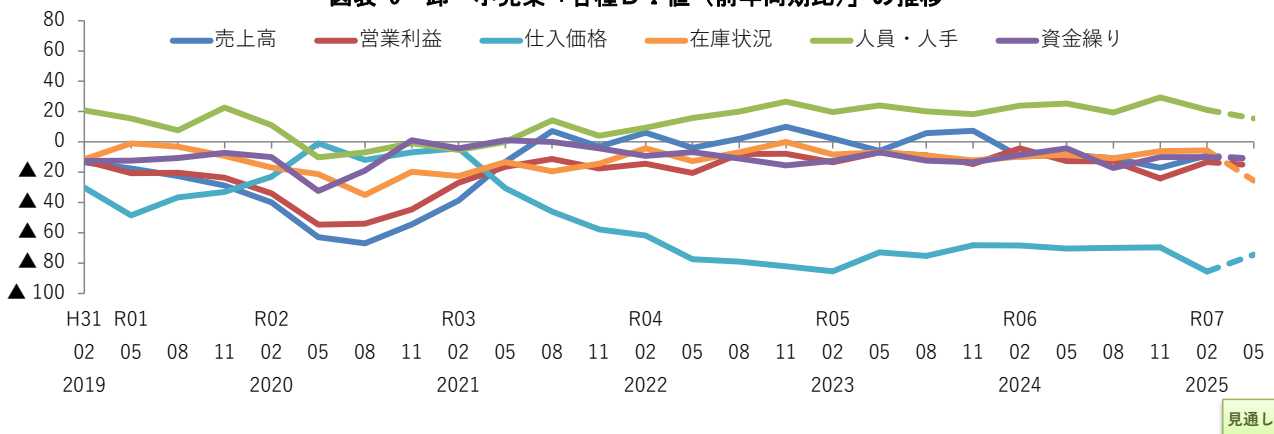
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲16.7（前回調査比 8.5 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」はほぼ横ばい、「売上高」「営業利益」「在庫状況」の 3 項目は改善、「仕入価格」は大幅な悪化となった。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が縮小した。各社のコメントによると、一部の販売業では好調な動きがみられたものの、原材料費、人件費、光熱費などの高騰から経営環境は総じて厳しい。また、物価高に伴う節約志向の高まりから客単価は低下傾向にあり、買い控えの拡大や消費マインドの後退を懸念する内容が複数寄せられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲20.0（今回調査比 3.3 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



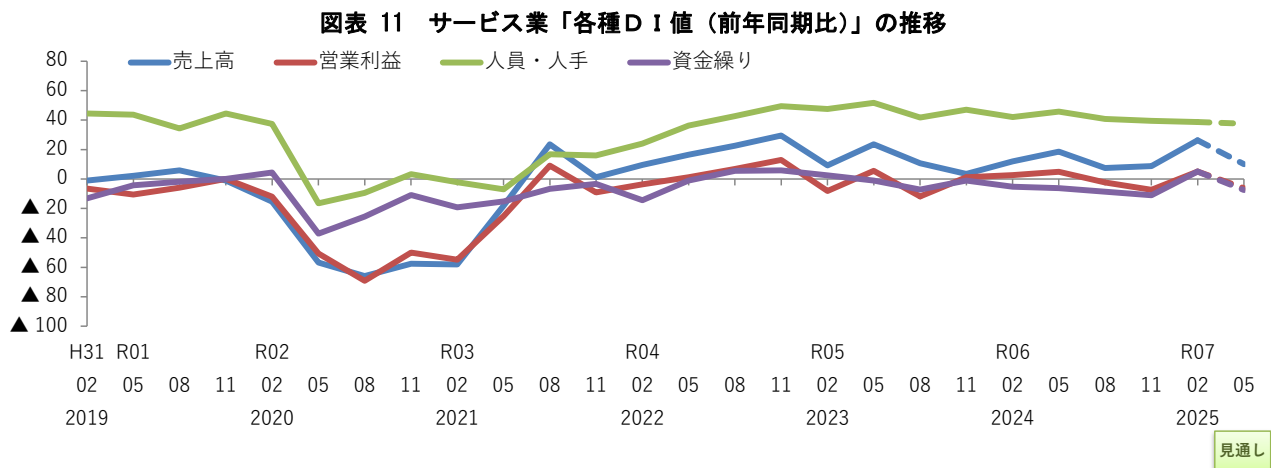
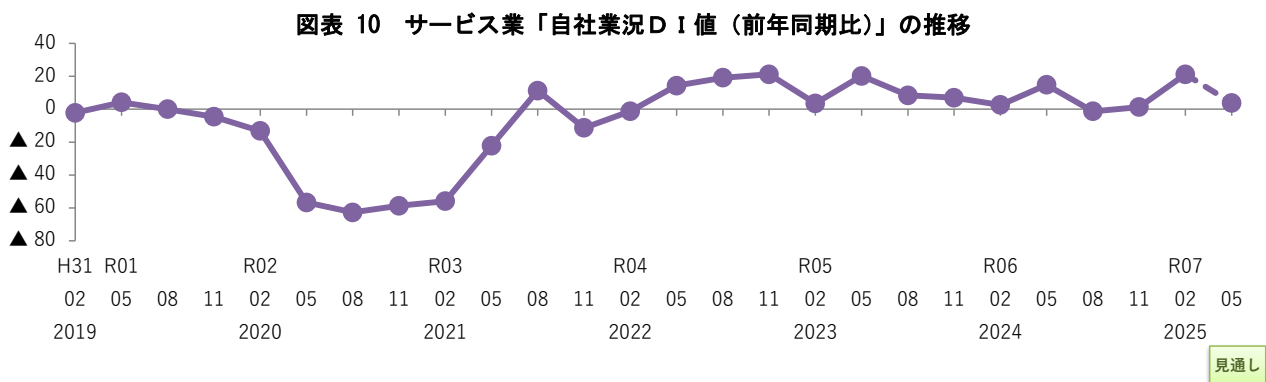
前年同期比の自社業況 D I 値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 06. 02 (n=92)	▲ 18.5	(▲ 7.5)	▲ 7.3	▲ 9.8	▲ 4.3	▲ 68.4	▲ 9.8	23.9	▲ 8.7
R 06. 05 (n=95)	▲ 16.8	(1.7)	▲ 15.2	▲ 8.4	▲ 12.7	▲ 70.5	▲ 8.5	25.3	▲ 4.2
R 06. 08 (n=93)	▲ 16.1	(0.7)	▲ 5.3	▲ 10.8	▲ 12.9	▲ 69.9	▲ 10.8	19.4	▲ 17.2
R 06. 11 (n=99)	▲ 25.2	(▲ 9.1)	▲ 21.5	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 69.7	▲ 6.1	29.3	▲ 10.1
R 07. 02 (n=90)	▲ 16.7	(8.5)	▲ 15.2	▲ 8.9	▲ 13.4	▲ 85.6	▲ 5.6	21.1	▲ 10.0
前回調査比	-	-	-	(8.2)	(10.8)	(▲ 15.9)	(0.5)	(▲ 8.2)	(0.1)
先行き見通し	▲ 20.0	-	-	▲ 11.1	▲ 15.6	▲ 74.5	▲ 25.6	15.5	▲ 11.1
今回調査比	(▲ 3.3)	-	-	(▲ 2.2)	(▲ 2.2)	(11.1)	(▲ 20.0)	(▲ 5.6)	(▲ 1.1)

④ サービス業

「自社の業況DI値（前年同期比）」は21.2（前回調査比19.9ポイント上昇）と2期連続の改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で改善となり、「営業利益」と「資金繰り」はプラスに転じた。「人員・人手」は3期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントによると、円安も追い風の要因となってインバウンド観光客が大幅に増加しており、特に宿泊業で堅調な動きがみられた。また、旅客自動車運送業では、人手の確保のために賃金上昇は不可欠であるとする一方で、今後の運賃上昇による利用者減少への懸念もうかがえた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が3.8（今回調査比17.4ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	人員 人手	資金 繰り
		前回調査比	前回調査予測				
R 06. 02（n=76）	2. 6	（▲ 4. 4）	▲ 2. 4	11. 9	2. 7	42. 1	▲ 5. 3
R 06. 05（n=81）	14. 8	（12. 2）	▲ 1. 3	18. 5	4. 9	45. 7	▲ 6. 2
R 06. 08（n=81）	▲ 1. 3	（▲ 16. 1）	▲ 7. 4	7. 4	▲ 2. 4	40. 7	▲ 8. 6
R 06. 11（n=81）	1. 3	（2. 6）	▲ 6. 2	8. 7	▲ 7. 4	39. 5	▲ 11. 1
R 07. 02（n=80）	21. 2	（19. 9）	▲ 2. 5	26. 3	5. 0	38. 7	5. 0
前回調査比	－	－	－	（17. 6）	（12. 4）	（▲ 0. 8）	（16. 1）
先行き見通し	3. 8	－	－	10. 0	▲ 6. 2	37. 5	▲ 7. 5
今回調査比	（▲ 17. 4）	－	－	（▲ 16. 3）	（▲ 11. 2）	（▲ 1. 2）	（▲ 12. 5）

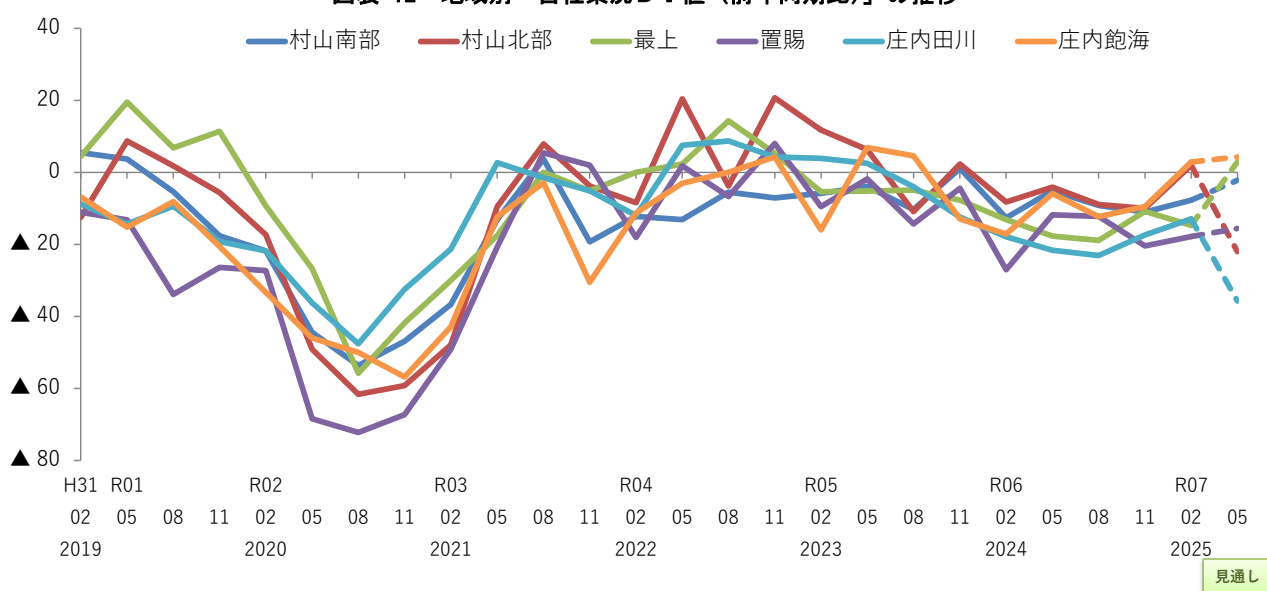
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲7.7（前回調査比 3.3 ポイント上昇）、村山北部が 2.0（前回調査比 12.0 ポイント上昇）、最上が▲14.7（前回調査比 3.9 ポイント下落）、置賜が▲17.8（前回調査比 2.6 ポイント上昇）、庄内田川が▲12.9（前回調査比 4.5 ポイント上昇）、庄内飽海が 2.9（前回調査比 12.4 ポイント上昇）と、最上で悪化、その他の 5 地域で改善となった。村山北部、庄内飽海の 2 地域で D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、村山南部、最上、置賜、庄内飽海の 4 地域で改善、村山北部、庄内田川の 2 地域で大幅な悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 06.02 (n=365)	▲ 15.9	▲ 12.6	▲ 8.2	▲ 13.1	▲ 27.0	▲ 17.9	▲ 17.1
R 06.05 (n=374)	▲ 10.5	▲ 5.1	▲ 4.1	▲ 17.7	▲ 11.8	▲ 21.6	▲ 5.9
R 06.08 (n=364)	▲ 14.0	▲ 9.2	▲ 8.9	▲ 18.9	▲ 12.2	▲ 23.1	▲ 12.3
R 06.11 (n=385)	▲ 12.9	▲ 11.0	▲ 10.0	▲ 10.8	▲ 20.4	▲ 17.4	▲ 9.5
R 07.02 (n=360)	▲ 7.3	▲ 7.7	2.0	▲ 14.7	▲ 17.8	▲ 12.9	2.9
前回調査比	(5.6)	(3.3)	(12.0)	(▲ 3.9)	(2.6)	(4.5)	(12.4)
先行き見通し	▲ 11.4	▲ 2.2	▲ 22.0	2.9	▲ 15.6	▲ 35.7	4.3
今回調査比	(▲ 4.1)	(5.5)	(▲ 24.0)	(17.6)	(2.2)	(▲ 22.8)	(1.4)

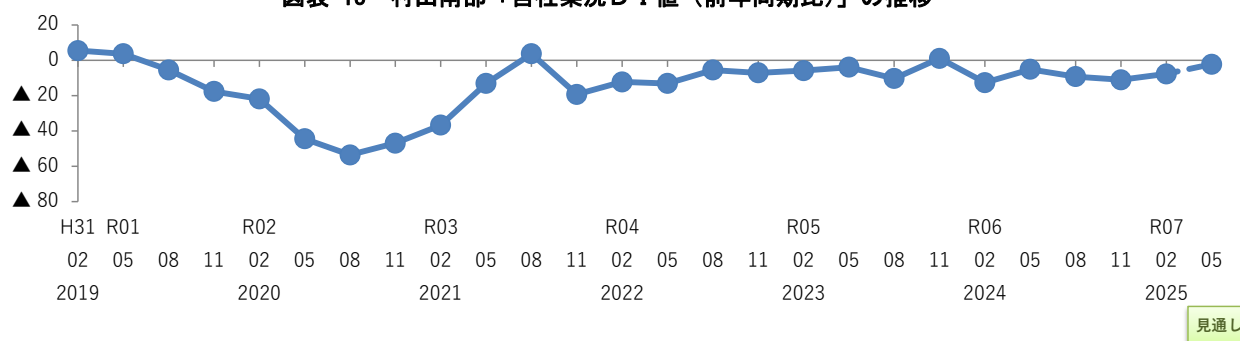
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

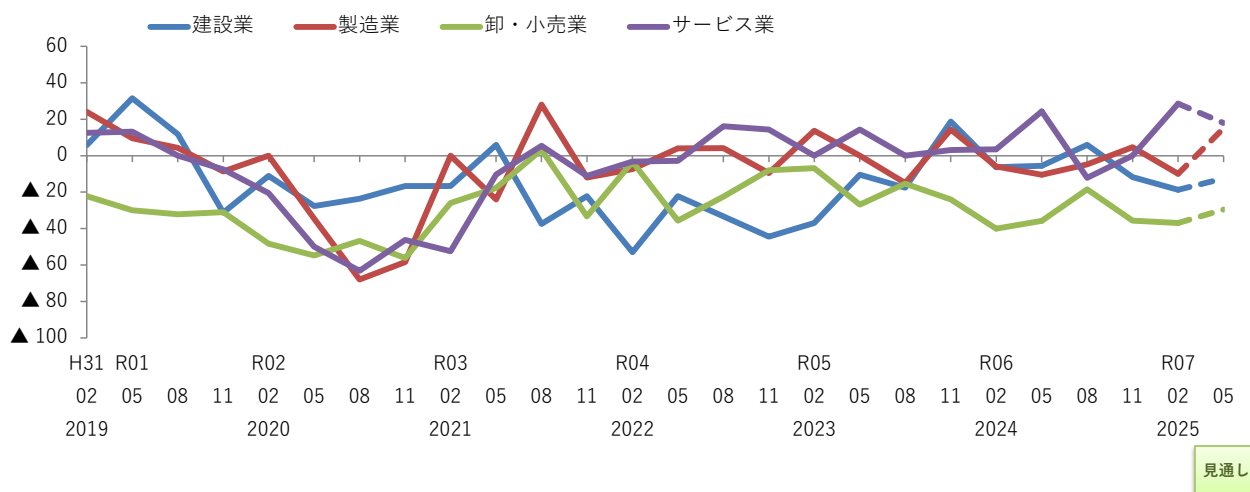
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.7（前回調査比 3.3 ポイント上昇）と 3 期ぶりの改善となった。業種別にみると、サービス業で改善、その他の 3 業種で悪化となり、製造業で D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲2.2（今回調査比 5.5 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

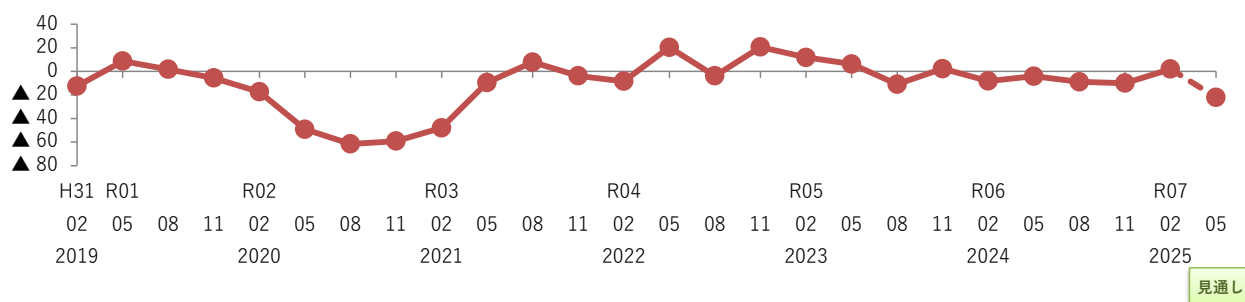
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 06. 02 (n=87)	▲ 12.6	(▲ 13.7)	▲ 11.7	▲ 6.3	▲ 5.9	▲ 40.0	3.5
R 06. 05 (n=98)	▲ 5.1	(7.5)	▲ 11.5	▲ 5.5	▲ 10.5	▲ 35.8	24.3
R 06. 08 (n=98)	▲ 9.2	(▲ 4.1)	▲ 9.2	5.9	▲ 4.8	▲ 18.5	▲ 12.1
R 06. 11 (n=100)	▲ 11.0	(▲ 1.8)	▲ 5.1	▲ 11.8	4.6	▲ 35.7	0.0
R 07. 02 (n=91)	▲ 7.7	(3.3)	▲ 9.0	▲ 18.7	▲ 10.0	▲ 37.0	28.6
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.9)	(▲ 14.6)	(▲ 1.3)	(28.6)
先行き見通し	▲ 2.2	-	-	▲ 12.5	15.0	▲ 29.6	17.9
今回調査比	(5.5)	-	-	(6.2)	(25.0)	(7.4)	(▲ 10.7)

② 村山北部

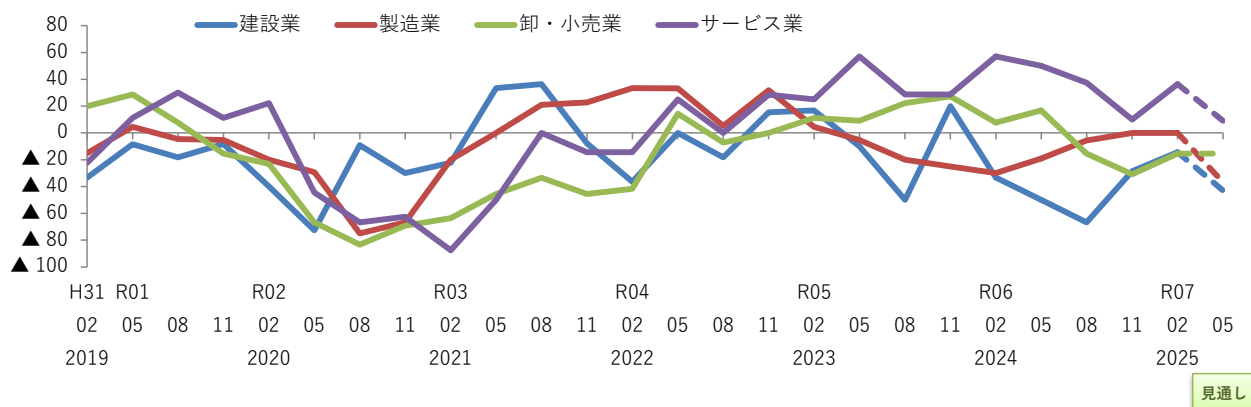
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 2.0（前回調査比 12.0 ポイント上昇）と 3 期ぶりの改善となり、プラスに転じた。業種別にみると、製造業は横ばい、その他の 3 業種は大幅な改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲22.0（今回調査比 24.0 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

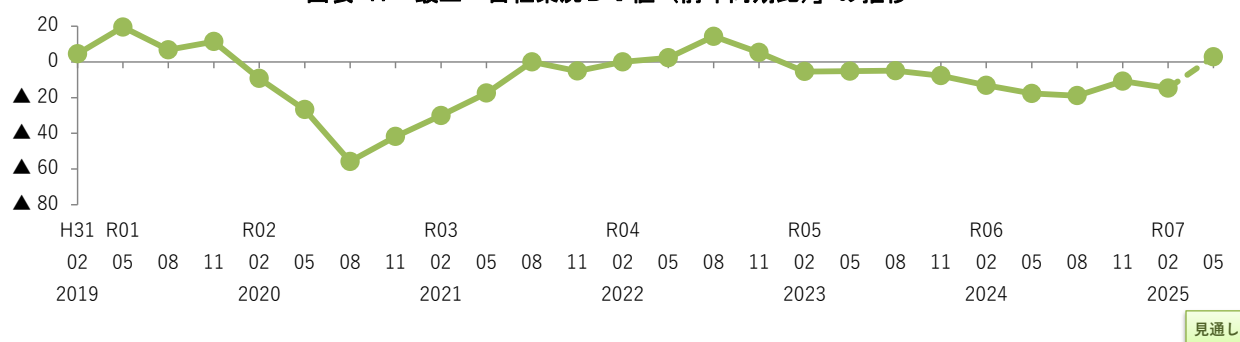
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 06. 02 (n=49)	▲ 8.2	(▲ 10.5)	▲ 9.3	▲ 33.3	▲ 30.0	7.7	57.1
R 06. 05 (n=49)	▲ 4.1	(4.1)	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 19.1	16.7	50.0
R 06. 08 (n=45)	▲ 8.9	(▲ 4.8)	▲ 10.2	▲ 66.7	▲ 5.6	▲ 15.4	37.5
R 06. 11 (n=50)	▲ 10.0	(▲ 1.1)	▲ 4.5	▲ 28.6	0.0	▲ 30.8	10.0
R 07. 02 (n=50)	2.0	(12.0)	▲ 10.0	▲ 14.3	0.0	▲ 15.4	36.4
前回調査比	-	-	-	(14.3)	(0.0)	(15.4)	(26.4)
先行き見通し	▲ 22.0	-	-	▲ 42.9	▲ 36.8	▲ 15.4	9.1
今回調査比	(▲ 24.0)	-	-	(▲ 28.6)	(▲ 36.8)	(0.0)	(▲ 27.3)

③ 最 上

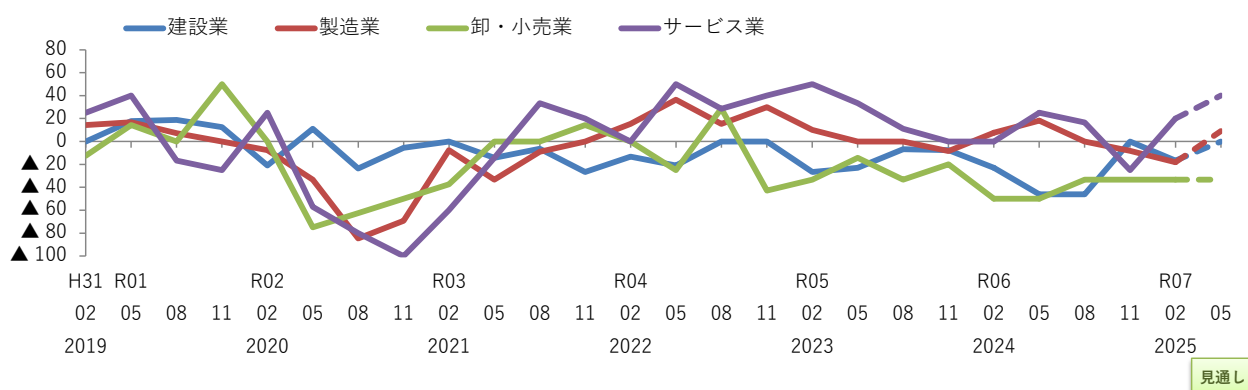
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲14.7（前回調査比 3.9 ポイント下落）と前期の好転から悪化の動きとなった。業種別にみると、卸・小売業は横ばい、サービス業は D I 値がプラスに転じて大幅な改善となり、建設業と製造業は悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 2.9（今回調査比 17.6 ポイント上昇）と大幅な改善が見込まれている。

図表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

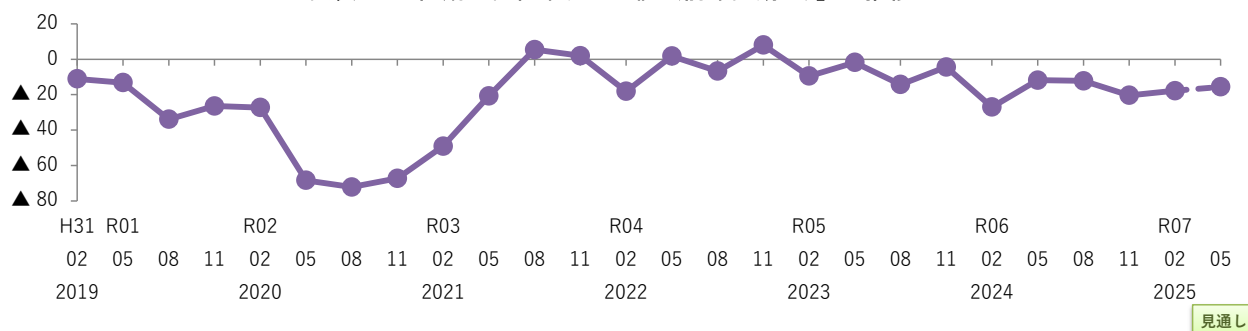
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 06. 02 (n=38)	▲ 13.1	(▲ 5.4)	▲ 15.4	▲ 23.1	7.7	▲ 50.0	0.0
R 06. 05 (n=34)	▲ 17.7	(▲ 4.6)	▲ 21.0	▲ 46.2	18.2	▲ 50.0	25.0
R 06. 08 (n=37)	▲ 18.9	(▲ 1.2)	▲ 20.6	▲ 46.1	0.0	▲ 33.3	16.6
R 06. 11 (n=37)	▲ 10.8	(8.1)	0.0	0.0	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 25.0
R 07. 02 (n=34)	▲ 14.7	(▲ 3.9)	16.2	▲ 16.7	▲ 18.2	▲ 33.3	20.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 16.7)	(▲ 9.9)	(0.0)	(45.0)
先行き見通し	2.9	-	-	0.0	9.1	▲ 33.3	40.0
今回調査比	(17.6)	-	-	(16.7)	(27.3)	(0.0)	(20.0)

④ 置 賜

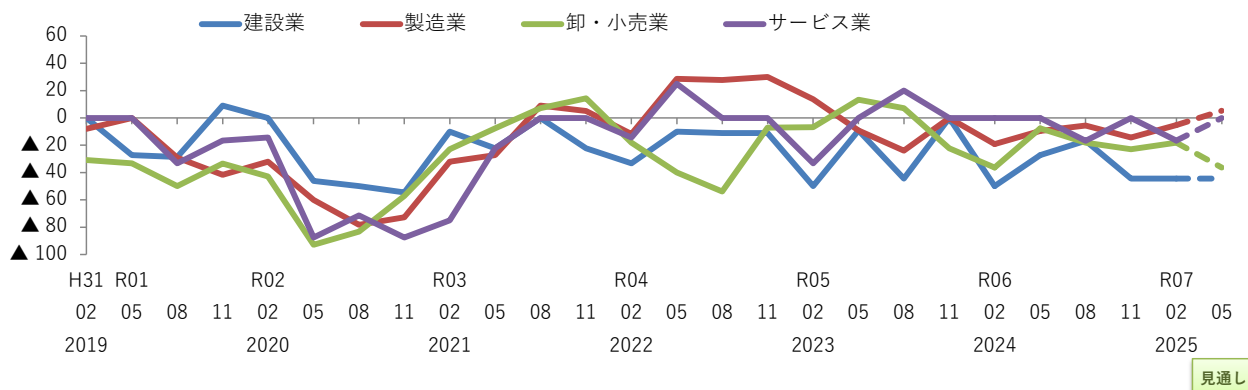
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲17.8（前回調査比 2.6 ポイント上昇）と 3 期ぶりの改善となった。
業種別にみると、建設業は横ばい、サービス業は悪化、製造業と卸・小売業は改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲15.6（今回調査比 2.2 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

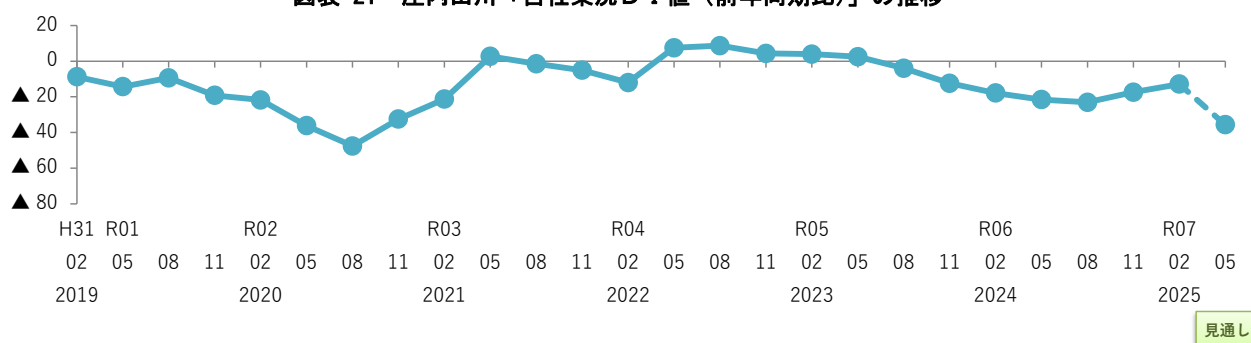
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 06. 02 (n=48)	▲ 27. 0	(▲ 22. 6)	▲ 26. 7	▲ 50. 0	▲ 19. 1	▲ 36. 3	0. 0
R 06. 05 (n=51)	▲ 11. 8	(15. 2)	▲ 16. 7	▲ 27. 3	▲ 9. 5	▲ 7. 7	0. 0
R 06. 08 (n=41)	▲ 12. 2	(▲ 0. 4)	3. 9	▲ 16. 7	▲ 5. 6	▲ 18. 2	▲ 16. 7
R 06. 11 (n=49)	▲ 20. 4	(▲ 8. 2)	▲ 9. 7	▲ 44. 5	▲ 14. 3	▲ 23. 0	0. 0
R 07. 02 (n=45)	▲ 17. 8	(2. 6)	▲ 16. 3	▲ 44. 5	▲ 5. 2	▲ 18. 2	▲ 16. 6
前回調査比	-	-	-	(0. 0)	(9. 1)	(4. 8)	(▲ 16. 6)
先行き見通し	▲ 15. 6	-	-	▲ 44. 5	5. 3	▲ 36. 4	0. 0
今回調査比	(2. 2)	-	-	(0. 0)	(10. 5)	(▲ 18. 2)	(16. 6)

⑤ 庄内田川

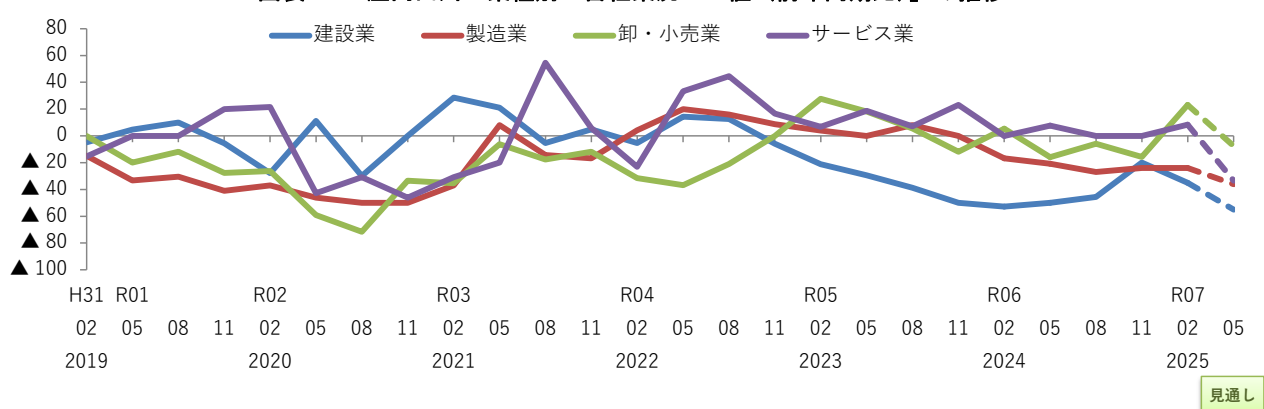
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.9（前回調査比 4.5 ポイント上昇）と 2 期連続の改善となっている。業種別にみると、製造業は横ばい、建設業は大幅な悪化、卸・小売業とサービス業は改善となり、卸・小売業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲35.7（今回調査比 22.8 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



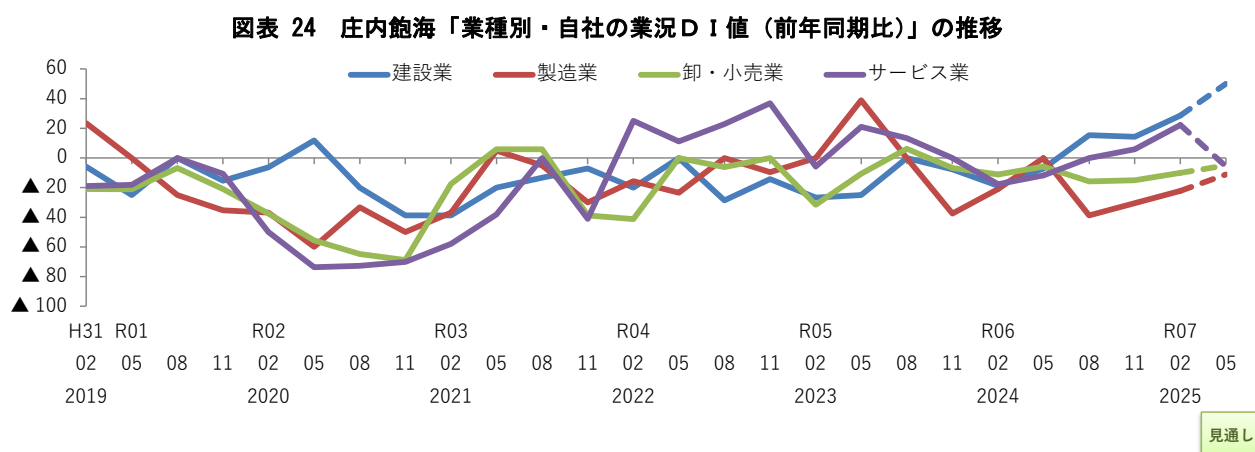
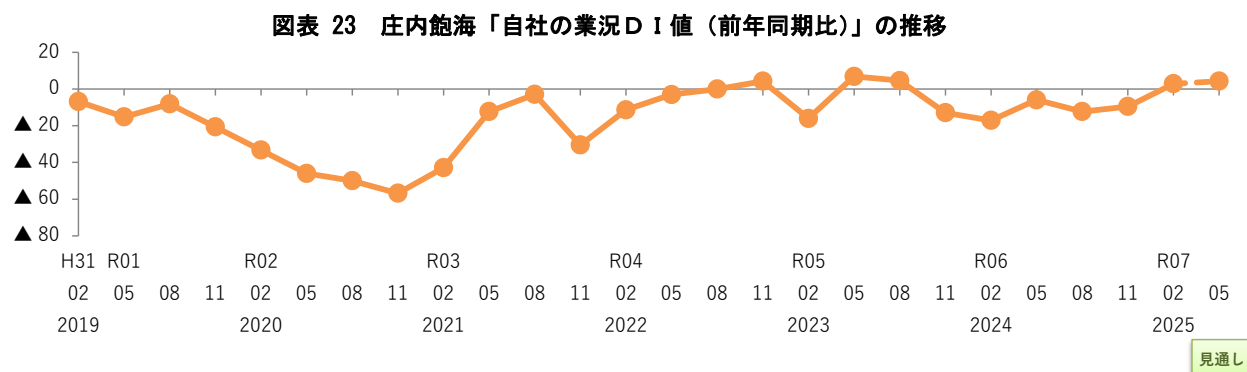
前年同期比の自社業況 D I 値

庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 06. 02 (n=73)	▲ 17.9	(▲ 5.5)	▲ 8.2	▲ 52.7	▲ 16.7	5.3	0.0
R 06. 05 (n=74)	▲ 21.6	(▲ 3.7)	▲ 21.9	▲ 50.0	▲ 20.8	▲ 15.8	7.7
R 06. 08 (n=78)	▲ 23.1	(▲ 1.5)	▲ 13.5	▲ 45.5	▲ 27.0	▲ 5.9	0.0
R 06. 11 (n=75)	▲ 17.4	(5.7)	▲ 21.8	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 15.7	0.0
R 07. 02 (n=70)	▲ 12.9	(4.5)	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 24.0	23.1	8.4
前回調査比	-	-	-	(▲ 15.0)	(0.0)	(38.8)	(8.4)
先行き見通し	▲ 35.7	-	-	▲ 55.0	▲ 36.0	▲ 7.7	▲ 33.4
今回調査比	(▲ 22.8)	-	-	(▲ 20.0)	(▲ 12.0)	(▲ 30.8)	(▲ 41.8)

⑥ 庄内飽海

「自社の業況DI値（前年同期比）」は2.9（前回調査比12.4ポイント上昇）と2期連続の改善となり、プラスに転じた。業種別にみると、すべての業種で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が4.3（今回調査比1.4ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 06. 02 (n=70)	▲ 17.1	(▲ 4.2)	▲ 12.9	▲ 18.8	▲ 21.0	▲ 11.1	▲ 17.7
R 06. 05 (n=68)	▲ 5.9	(11.2)	▲ 10.0	▲ 7.1	0.0	▲ 5.9	▲ 11.8
R 06. 08 (n=65)	▲ 12.3	(▲ 6.4)	▲ 13.2	15.4	▲ 38.8	▲ 15.8	0.0
R 06. 11 (n=74)	▲ 9.5	(2.8)	▲ 21.5	14.3	▲ 30.4	▲ 15.0	5.9
R 07. 02 (n=70)	2.9	(12.4)	▲ 8.1	28.6	▲ 22.2	▲ 10.0	22.2
前回調査比	-	-	-	(14.3)	(8.2)	(5.0)	(16.3)
先行き見通し	4.3	-	-	50.0	▲ 11.1	▲ 5.0	▲ 5.6
今回調査比	(1.4)	-	-	(21.4)	(11.1)	(5.0)	(▲ 27.8)

II. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

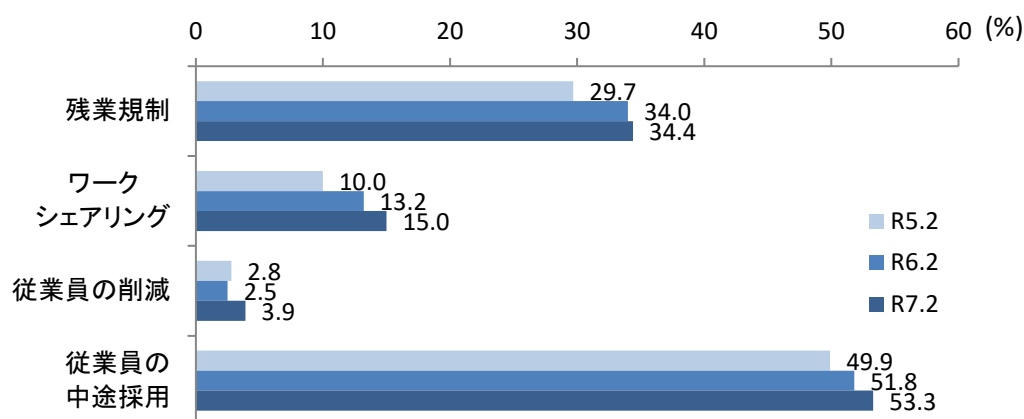
	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

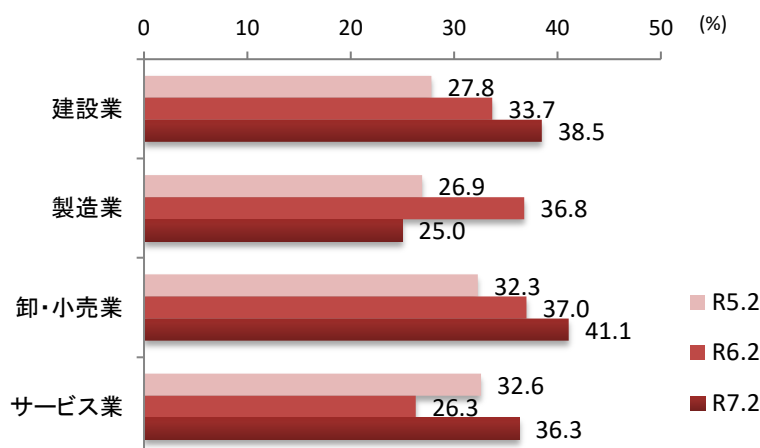
1. 雇用調整について

令和 6 年度に実施した（あるいは実施している）雇用調整について尋ねたところ、「残業規制」が 34.4%（昨年比 0.4 ポイント上昇）、「ワークシェアリング」が 15.0%（昨年比 1.8 ポイント上昇）、「従業員の削減」が 3.9%（昨年比 1.4 ポイント上昇）、「従業員の中途採用」が 53.3%（昨年比 1.5 ポイント上昇）と、昨年に比べ、すべての項目の割合が上昇した。

図表 25 雇用調整の実施状況

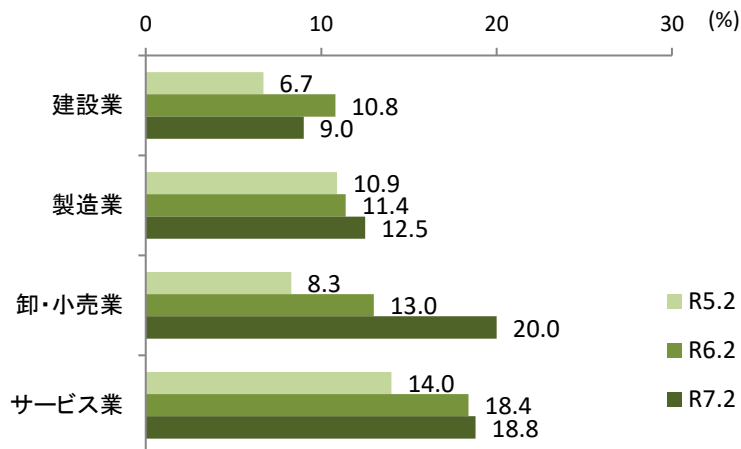


図表 26 業種別「残業規制」の実施状況



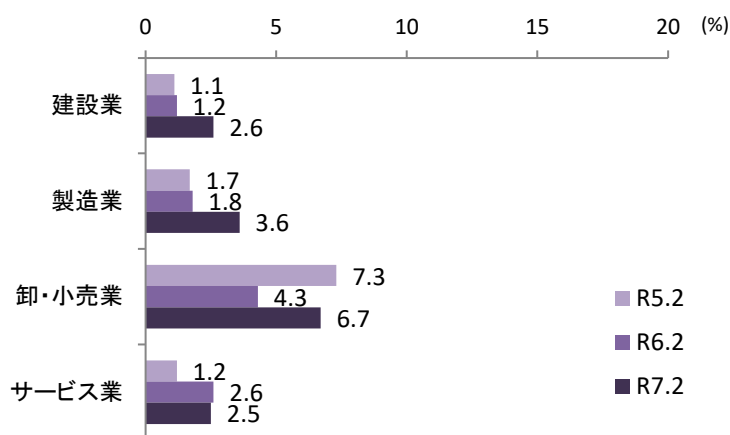
「残業規制」の実施割合を業種別にみると、昨年に比べ、製造業で低下となった一方、その他の 3 業種で上昇となった。

図表 27 業種別「ワークシェアリング」の実施状況



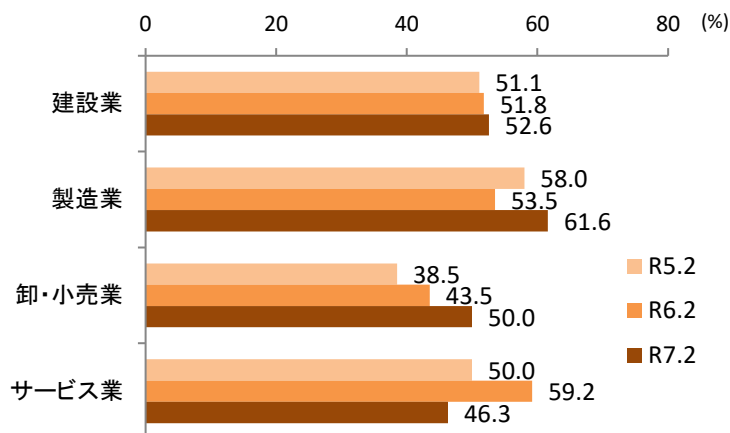
「ワークシェアリング」の実施割合を業種別にみると、昨年に比べ、建設業で低下となった一方、その他の3業種で上昇となった。

図表 28 業種別「従業員の削減」の実施状況



「従業員の削減」の実施割合を業種別にみると、昨年に比べ、サービス業で低下となった一方、その他の3業種で上昇となった。

図表 29 業種別「従業員の中途採用」の実施状況



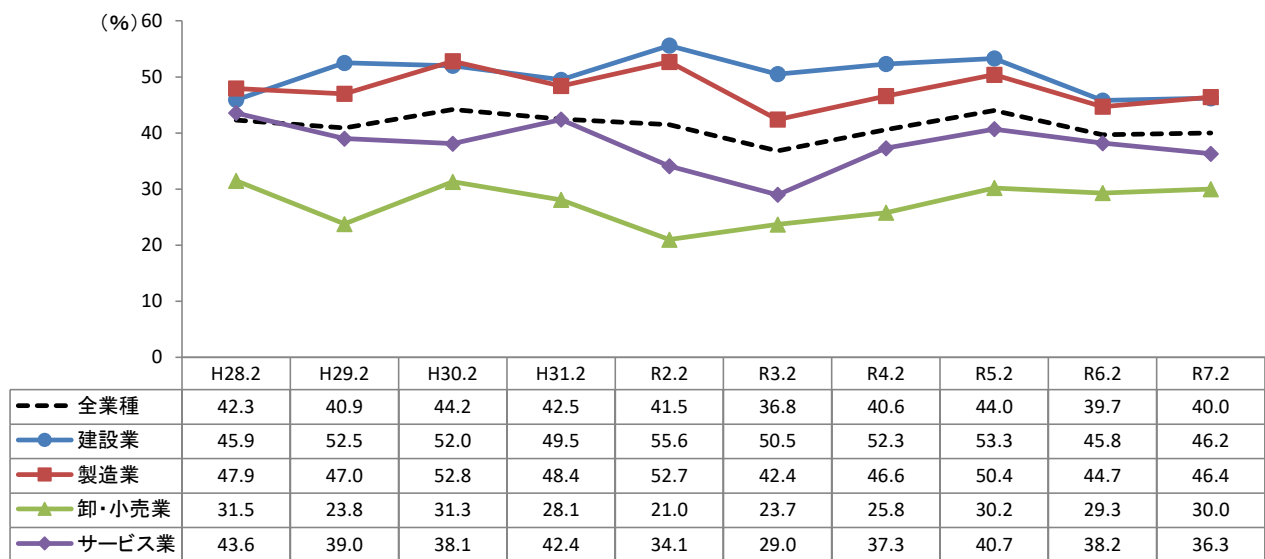
「従業員の中途採用」の実施割合を業種別にみると、昨年に比べ、サービス業で低下となった一方、その他の3業種で上昇となった。

2. 新卒者の採用状況について

来年度（令和 7 年度）の新卒者の採用状況（採用するかどうか）について尋ねたところ、採用予定があると答えた企業の割合は、全業種でみると 40.0%（昨年調査比 0.3 ポイント上昇）と 2 年ぶりに上昇となった。

業種別にみると、建設業が 46.2%（昨年調査比 0.4 ポイント上昇）、製造業が 46.4%（昨年調査比 1.7 ポイント上昇）、卸・小売業が 30.0%（昨年調査比 0.7 ポイント上昇）、サービス業が 36.3%（昨年調査比 1.9 ポイント低下）と、サービス業で低下となった一方、その他の 3 業種で上昇となった。

図表 30 業種別「新卒者の採用状況」の推移



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	33	41	50	146
村山北部	20	28	17	17	82
最 上	21	18	8	17	64
置 賜	23	27	24	11	85
庄内田川	29	36	26	28	119
庄内飽海	32	31	31	35	129
合 計	147	173	147	158	625

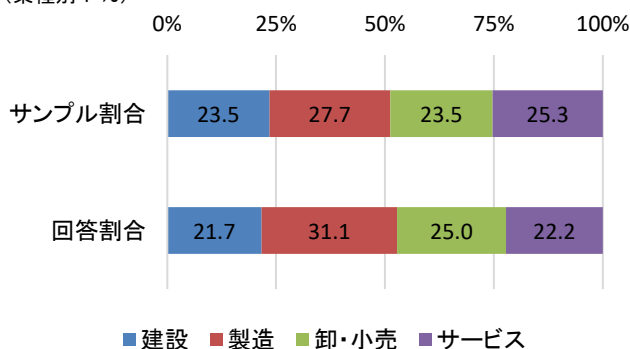
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	16	20	27	28	91
村山北部	7	19	13	11	50
最 上	12	11	6	5	34
置 賜	9	19	11	6	45
庄内田川	20	25	13	12	70
庄内飽海	14	18	20	18	70
合 計	78	112	90	80	360

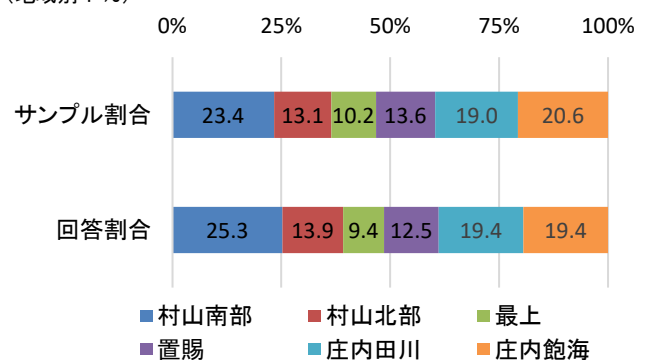
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	72.7	60.6	65.9	56.0	62.3
村山北部	35.0	67.9	76.5	64.7	61.0
最 上	57.1	61.1	75.0	29.4	53.1
置 賜	39.1	70.4	45.8	54.5	52.9
庄内田川	69.0	69.4	50.0	42.9	58.8
庄内飽海	43.8	58.1	64.5	51.4	54.3
合 計	53.1	64.7	61.2	50.6	57.6

(業種別：%)



(地域別：%)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 7 年 2 月 3 日 (月) ~ 17 日 (月)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-2 1 荘銀山形ビル 8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>